



キリスト教センター通信 第55号

2022年5月3日

「鐘の音」～ウクライナへの祈り～

神戸国際大学オルガニスト 伊藤純子

本学チャペル入口には鐘があり、学内では毎日礼拝前に鐘の音が響いています。私が自宅に居る時も、教会の鐘の音が風に乗って来ることがあります。鐘は教会のほか、日本古来の寺院でも見かけることが多いです。大晦日にふと窓の外から除夜の鐘が聞こえて、温かく厳かな心持ちになった方もおられるでしょう。

日常の中で鐘の響きを耳にすると、ハッとします。こちらがどのような状況であっても一番大切な何かを伝えてくれるような特別の力が、鐘の音にはあるように思います。鐘の音にはもちろん、周辺に時刻を伝える役割があるとは思いますが、それ以外の大事な役割がありそうです。

「祈り」や「思い」を届けて受け止める、という絶大な効力が、鐘の音にはあるのではないのでしょうか。

鐘の音はまた、「希望」の象徴としても用いられるようです。以前朝の連続テレビ小説「エール」でも取り上げられた古関裕而氏作曲の歌に下記があります。

『長崎の鐘』：影のある短調のメロディの後、「(歌詞) 慰め励ます」鐘の登場シーンで、光が差すような長調への転換

『とんがり帽子』：(歌詞)「鳴る鳴る鐘は父母(おそらく故人)の元気でいろよと言う声よ」

祈りと希望を届ける鐘の音は、聴く人の胸に響き、聴く人の祈りや思いを、どこまでも大きく包み込み、強く、温かく、受け止めてくれます。

ウクライナの全ての家々、そして世界中の全ての家々に、希望の音が届きますように。

(ひとくちメモ)

鐘の特徴のひとつに「連続性」があります。「ウクライナの鐘のキャロル」を聴くと、同じ祈りを何度も畳み掛けることによって、祈りのエネルギーが強くなり、想いの温度が高くなっていく感じが感じられます。

(歌詞)冒頭「聴け鐘の音を 快い銀の鐘を 語りかけてくる 不安は消え去ると」
末尾「鳴り続ける 終わることなく 喜びの音を すべての家々に ディンドンディンドン」



← 音色はこちら

ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。
明日を恐れるすべての人々に、
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、
み旨に適う決断へと導かれますように。
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいる
あなたの大切な子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教
スティーブン・コットレル大主教

A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,
we pray for the people of Ukraine today.
We pray for peace and the laying down of weapons.
We pray for all those who fear for tomorrow,
that your Spirit of comfort would draw near to them.
We pray for those with power over war or peace,
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,
that you would hold and protect them.
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.
Amen.

Archbishop Justin Welby
Archbishop Stephen Cottrell

